

0410

北白川宮 能久親王
御歸京及薨去ニ係ル件



局		着		局		發		人信受	
印	附日	取受 扱者信	信委 あハ唯五分	二 ハ字	年 一ハ四分	月 三ハ八分	第三 〇號	サ ク キ局	イ ト ウ カ イ ジ
								報	
								日本政府電報送達紙	
								着第	
								五	
								號	

0412

ラ
子
主
部
ノ
ニ
ニ

電報集

各港角日サ将より左ノ通電報アリ通電
 西京此去野ハ三十一日午後一時十五分頃
 以突ニ向ヒ安平出港セシ旨更ニ預地司
 令長官ヨリ電報アリタリ
 電報アリ通電ナシ

十月二十日

山手大正官防

横濱支店課長

海

軍

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS		Address	
Station <u>Kaigunsho. 11. 95</u>		Marquis Saigo & Viscount Ito Kaigunsho Tokio	
Office No. <u>2</u>			
Class <u>S</u>	Time received <u>11.45 pm</u>	Remarks	
No. <u>Nil</u>	S. Matsuka		
Words <u>25</u>			
Given in at <u>Saipu</u>	Date <u>1. 11. 95</u>	H. <u>6</u>	M. <u>pm</u>
Mane curvus wa presa Irouiso Cyllas angnotes Anping vicilla Seshimune Sarani Michi Hsaturu yori Karthago aritari Tsunoda Jotmosa anagnoto			

Delivery Form
 11. 11. 95
 0415

0416

軍務局

次官



震部



村上

五月一日 午後五時五分

西下

矢田 塚 塚

南ヨリ東へ吉野及海軍今通過
セリ

海

軍

次官

軍務局

人事課

經理局

海軍省會議

0417

出納

電報

封上

封上

封上

封上

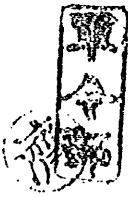
左ノ通多ク中山河内等ノ不意に
近衛師團長以下... 西軍此ニ攻撃せし
能き理に當りて... 十時過ぎに
横河重三自京來り... 四時過ぎに
左ノ通多ク中山河内等ノ不意に
近衛師團長以下... 西軍此ニ攻撃せし
能き理に當りて... 十時過ぎに
横河重三自京來り... 四時過ぎに

封上

封上

海軍

海軍



電報譯

東京



西郷海軍大臣宛

臺灣

角田少將



近衛師團長殿下
西京丸二御乗艦軍

艦吉野護衛廿九日午前十時安幸日

横須賀三直航御着艦末月三日或

四日十二

十月二十日午後九時中分

同 三日同七時五分

案電報

近衛師團長殿下
廿九日午前十時
西京
此ニ仰宗船吉野
歸還周知平
幕十一月
三日或ハ四日
接所突ハ
着船ノ旨電
報アリ
又通電ス

共年十月三日
海軍大臣
友房

接所突然
吉野船
返ル

海軍

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Address

Station Kaigunsho 307095 Date 7/5

Office No. 37

Saigo Kaigun
Yajima Tokio

Class 5

Time received 7.30pm

Remarks

No. Nil

Words 29

Co Matsushita

Cable

Given in at Yajima

Date 28. 10. 1895

H. 9

M. 40

Influo. buxifer jugosus
Mane ni cenchreak opimus curvus
injectus proruptus protraho Anping
yori cyclas nichokkhou cenchreak
beformatus wa Evigilo propono lentus
proponis inmodulor Tsunoda
Jotmosa

Delivery Form

0420

村上

土月二日 收 三時 土代 又廿年 茂

西丁酉年十月

高正叔二十一年
年終吉

有地帶休歌像戶居爰

本殿、能久親王殿下、病氣、西京、
 召、留、京、
 廿、日、安、平、
 廿、日、午、
 殿、下、
 廿、日、午、
 殿、下、
 廿、日、午、

人 員 表

五
十
年
大
作

日本經濟新聞

15

信
コウチケ
スサキ
コダマ
アノ
アノ
アノ
アノ

蘇子

人 民 路

人 生 觀

軍務局

次官



出河

東京電報譯

伊東子爵

臺灣

角田

東京丸吉野ハ三一日午後一時十五分

横濱加三向ヒ安平出港セリ旨更ニ

有地司令長官ヨリ電報アリタリ

十一月一日午後六時臺北發

同日土時四十分海軍省着

別紙に道電帳より取り出さし
付しとす

よりて

電車老老

上政より

道電帳に記しあるものより取り出し
以下各頁より取り出しとす
尚ほこれより取り出しとす

横須賀鎮守府秘書

軍艦吉野高知縣泊橋港、歸港

能仁親王殿下御病氣西京丸より歸

於ニ付テ護衛令セラレ二十九日安平港

今当地、歸港ス末、四日午前横須賀

着テ豫定ナリ付テ、殿下横須賀より御

上陸汽車ニテ水帰京ニ答殿下所寢

台ノ目方大凡ソ貳百貫目餘リアリ

官房主事

局	着	局	發
期	時分	日	號
一 二 三	七 分	十 月 三 日	五 號

✓ 4
7
(3)

人 類 學

1
2
3
4
5
6
7

日本 政府 電報 送達 紙	指定	第 一 號	記 事	第 一 卷
---------------------------	----	-------------	--------	-------------

號

的的以酒為樂

IMPERIAL JAPAN

0429

局	發	局	發
第	第	第	第
月	月	月	月
日	日	日	日
時	時	時	時
分	分	分	分
字	字	字	字

[illegible]

日本經濟發展

新編

0430

親

親

軍務局

霍乱

青石山

聖心年大

極所至銘之

抄本 己亥年

左、通言也。スサキ港。此處吉野有地帯。此

和史、能久親王殿下、病氣を蒙り、三月、
 復、病床より下り、二十日、安政、今、當、地、二、高、港、又、
 才、
 下、
 下、
 下、

第 〇 二 号

海

軍

大臣

次官

能久親王殿下
横須賀御著艦本日午後

軍務局

時五十分同所御發車
明五日前
零時

人事課

四十五分新橋御著可相成候此段及御通知

總理局

也
相原
鮫島
高橋玄雄
宮内大臣伯爵土方久元

明治廿八年十月四日

宮内大臣伯爵土方久元

軍令部

海軍大臣候爵西郷從道殿

衛生會議

海軍技術會議

東京電法會議

多々

軍令部長



第一局



主事



浄寫

校合

發付済

十月五日

年月日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長

第一課長



主任課長

電報案

能久親王殿下薨去ニ付本報到達ハ日ヨリ
五日間半旗ノ禮ヲ行ヒ且葬儀當日半旗吊砲
執行スヘシ

明治三十八年十月五日

大臣

各鎮守府司令官及
西郷隊司令官及
根拠地司令官及

電信

左ノ通各司令官長官へ訓令せし此旨心得へし
大正八年十月七日

兵學校長

左ノ通各司令官長官へ訓令せし此旨心得へし

軍務局

能久親王殿下薨去ニ付今五月五日
日間奉旗ノ禮ヲ行ヒ且葬儀當日
半旗吊砲執行可致旨被仰出候條
此段及通達候也

明治廿八年十一月五日

宮内大臣伯爵土方久元

海軍大臣侯爵西郷從道殿

第三十三號

第三十三號

五月五日

軍務局

經理局

故姓之親王邸の英儀掛事務所より
所正上院ニテ自衆議院議長官舎内
漢字同所に於る事務取扱案此より
法通課也

明治廿九年三月

軍務局長

第一課 出羽

供覧

故姓之親王英儀掛

次官



海軍省

出中

主事



浄寫

校合

發付

五月六日

年月日

主務

立案者

大臣

次官



第一課長



澤

電信業

近衛師團長結久親王殿下陸軍大將

任セラレヒ五ノ葉去ト付同ヨリ三ノ問歌

舞音曲傳止

十一ノ午九時御出揃國葬ヲ以テ此葬儀

四三三

母

臣

通志

何殊此年九月

弦子打生香

西海浮屠之書

歌頌山河手植樹地日長青

五豐校區

#10

Admiral Tanoda

Taipei Formosa

Sent. Gen. Prince Yoshihisa promoted to 1st General
and died on 5th inst. Mourns stopped during
3 days from the 5th. Funeral takes place from
9 AM on the 11th with Kokoro. ~~Before~~ the
above to Admiral Togo. ~~Convey~~

Yoshimichi

6th Nov

0439

軍令部長

第一局



主事

淨寫

發付

校合

十二月八日

年月日

主務

立案者

大臣



次官



軍務局長

第一課長



案

牙士。故近海軍國生倭軍大將敏久親王
殿下御葬儀奉旨臨時休職スヘシ
明治三十八年十月八日 海軍大臣

在東京者廳長

軍令部長

四三五

海

軍

軍務局

西園寺一也

第一課

陸軍省

癸卯十一月廿三日
 近衛師團出陣
 後之親王殿下御葵儀
 付之當日
 各故官ノ心得ヲ
 略略録之
 命可也ト存此
 昭及通牒也
 明治廿一年十一月

内閣總理大臣伊藤博文

海軍大臣西鄉從道

長身四二四二

あるハハ規屋スルテ様あるハ

電報集

事々下故陸軍大將能久親王殿下御養
迄三日申上根時刻即千四日午前九時午後二
十一時迄の間に

二十四年十一月

由事大日

武法とあるやある

雨新保るやある

秋風根保るやある

山々一色その様也

付記

本件支例のあまたに著記載する者一例たる

只時刻に至りては著記載する者一例たる

又下りては著記載する者一例たる

見し所り様也

海

軍

總發行所 東京 丸の内區 丸の内 丸の内ビルヂング

[illegible]

北白川宮殿下御葬式、トキ施リスルキ
吊枕及ヒ吊枕時軒ハ四月十二年七月誕生
才一二四四号達モニ基キ正午ヨリ二十一
度施リスル儀ナレバ或ハ時軒及枕等
敷ハ州ニ初メ相成ルヤ

恒順矣然其時
 如浦月夜也

0445

海軍参謀官

軍令部

軍務部

次官



出羽

電報

ナニナニナニナニナニナニ

要の字大

井上西河 陸軍少将

原金ニ基キ弔死シタリ又三ツタリ

ス

海軍

0445

局	番	局	番	局	番	局	番
第	第	第	第	第	第	第	第
一	二	三	四	五	六	七	八
九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六
十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二
三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十
四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八
四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六
五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四
六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二
七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十
八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八
八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六
九十七	九十八	九十九	一百				

~~Handwritten signature/initials~~

Handwritten text in vertical columns:

ハ
メ
リ
リ
ソ
ム
ニ
コ
ウ
ス
ズ

日本政府電報送達紙
第
十
一
号

Handwritten text in vertical columns:

ハ
メ
リ
リ
ソ
ム
ニ
コ
ウ
ス
ズ

Handwritten text in vertical columns:

ハ
メ
リ
リ
ソ
ム
ニ
コ
ウ
ス
ズ

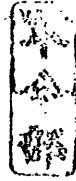
市堅味生故能久親至風下動豪構坊在
 六名増加わ事、改らぬ事、大匠一水四所看
 し、し、又、おの三宮葬儀、長より内院に
 少法太尉ニテ六名被差出さる可く、これ計
 算、有るは、此の六名増加ノ儀ハ、三宮葬
 儀、長より内院降、六名外ニ六名の差
 出儀、其様ニモ相見得難き付、日持、同
 合、中、又、最、前、六名、ニテ、定、数、九、人、ナリ、是、由、也
 予、月、將、校、六、名、丈、今、差、出、可、く、之、案
 取、振、込、承、知、上、申、事、也、此、既、爲、度、中、迄、了

745

心平氣和

北にまの男舞高崎五六段

長子長通書、趣各日、通書、万段行書



謹啟陳ハ来ル十一月故能久親王殿下御葬儀
 之砌御列中勲章奉持者儀ハ故熾仁親
 王殿下御葬儀之節、如ク陸海軍將校
 于捧持相成候様被致度妃殿下之御希望ニ
 有之候間右捧持者、海軍將校六名御増
 加相成度旨御依頼可致妃殿下、命ニ依リ
 此段得貴意候敬具

追テ本文御差支無之候ハ御模定ノ人名ハ当
 日午前七時半迄ニ御邸、參著相成候様夫
 貴省ヨリ御通達被下度候也

明治廿八年十一月九日

七
白
川
宮

本文
字加
ハラ
字加
ハラ

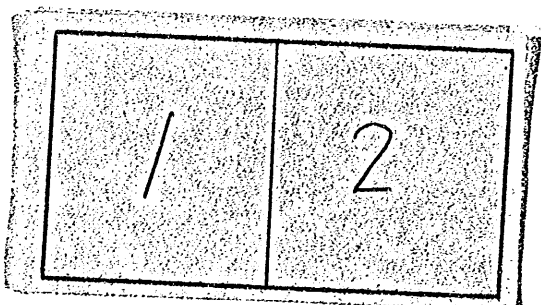
市文六名増かト有し不願ナルヲ以テ同居
家私「陸軍将校」外ニ少軍将校六名ヲ
加ヘラシメト、之ニ味ナル由、之ヲ困窮ノ際
字取違セシコト知事矣乃知アリ故トノ趣ナリ

0450

北白川宮別当男爵高崎五六

海軍大臣侯爵西郷從道殿

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

相成りては

能く

（Faint handwritten text)

節

持

（Faint handwritten text)

（Faint handwritten text)

れ

ナ

（Faint handwritten text)

（Faint handwritten text)

（Faint handwritten text)

能く親に近き侍儀に
下りて侍る
節に於ても學問を捧
持し海軍學校に名
を附けり
其の
子に
親に
より
依

親中よりや

ナリ

長井信也
本任中尉

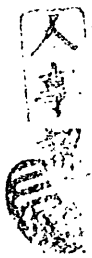
0452

大日本海軍主事殿

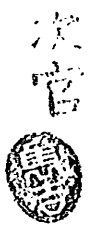
0453

安東大佐
 筑山大佐
 鍋橋少佐
 山縣大佐
 荒井大佐
 大佐

0455 0454



官房



仲

別紙之通北白川宮家令ヨリ通牒越候系
為念及御通分也

明治二十八年十月廿五日

山本軍務局長

敬宮殿下御墓參儀二付別紙之通諸陵察協議清二付
御心得、為申進多系御墓參有恙者、御通達湯
求計相成度此段申進也

明治二十八年十一月廿三日

別紙

神明 第五号

海軍大臣秘書官 中

北白川宮家令恩地 轍

敬龍久親王殿下御墓參拜為陸海軍將校及御縁故有之、聖嶋岡
御墓所へ参入、節御門通行並許方以依頼、趣了承古ハ通行並之
無之其旨同所詰守長守部、申達並多系此段及御答也

明治二十八年十一月廿日

諸陵頭 足立 西 殿

北白川宮家令恩地 轍殿

通多系、人ハ因風儀ハ不苦者不都合、認是、ハ守長守部ニ於テ以門通行
差、易多儀ハ有之為、急此段申達多也